

第5学年 体育科 学習指導案

令和3年 11月5日（金）体育館

1 単元名 「1・2・アタック！ ミスプロ杯！（ソフトバレーボール）」 (ボール運動 ネット型)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

- ネットをはさんで相対するチームが、トスやアタック、レシーブなどを用いてボールをネット越しに打ち返し、相手コートにボールを落とすことによって得点を競い合うことを楽しむ運動である。
- 練習やゲームを通して励まし合ったり教え合ったりして仲間と関わるのが大切であり、思いやりの心を育むことができる運動である。
- 攻守が分離されているので、守備から攻撃への連携が児童にも分かりやすい運動である。

(2) 児童から見た特性

ソフトバレーボールの楽しさや喜びを感じる要因	ソフトバレーボールを遠ざける要因
<ul style="list-style-type: none"> ・トスやレシーブでボールをつないだり、アタックを決めたりすることができたとき ・仲間と励まし合ったり教え合ったりして技能が身に付いたとき ・作戦を生かしたプレーがうまくいったとき 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分のところにボールが回ってこないとき ・ラリーが続かないとき ・自分の思った通りにプレーできないとき

3 児童の実態

(1) 知識及び技能

【R3年度新体力テスト(令和3年度5月実施)の結果とR1年度県平均値と比較】

○…県平均値を上回る△…県平均値を下回る

		握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m走	立ち幅跳び	ボール投げ
男子	学級平均								
	県平均	16.54	22.03	35.37	44.64	56.06	9.31	156.5	20.79
	比較	○	○	○	○	△	△	○	○
女子	学級平均								
	県平均	16.38	21.48	40.13	43.01	47.64	9.51	151.9	13.74
	比較	○	○	○	○	○	△	○	○

【体育に関する実技調査より】（調査日：令和3年7月16日 調査人数 名）

①相手コートから前後左右に投げられた山なりのボールを返球することができるか。	A：味方に向かって返球できる	
	B：味方がつなげやすい高さまで上げられる	
	C：手には当てられる	
	D：手に当てられない	
できない児童の実態		
<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの落下地点まで動くことが遅れる。 ・両手の指を組んだままボールを受けようとする。 ・両腕を思い切り振っている。 		

②味方コートでパスされたボールを相手コートに返球することができるか。	A：強いボールを返すことができる	
	B：相手コートに返すことができる	
	C：ボールに当てられるがアウト，ネット	
	D：手に当てられない	
できない児童の実態		
<ul style="list-style-type: none"> ・ボールの落下地点まで動くことが遅れる。 ・ボールを見ずに思い切り腕を振っている。 ・腕を振らずに押し出そうとしている。 ・遠近感が捉えられず空振りしている。 		

1学期に実施した新体力テストでは、ほぼ全項目で県平均以上の数値を記録した。毎朝の8秒間走や外遊びなど運動の習慣化がその要因と考えられる。児童を平均的に見れば高い運動能力があるといえるが、走力やねばり強さに大きな個人差がある。

アンケートをとったところ、「ソフトバレーボールで難しいと思うところはどこですか。」の問いに対して「ボールをつなぐこと」や「アタックを決めること」等運動の行い方に関する回答が50%であった。また「分からない」の回答が40%、ルールに関わる回答は10%であった。このことから、バレーボールについて見聞きし、どんなゲームなのか児童なりに何となくは知っているが、実際に運動した経験が少なく、ゲームのルールや基本的なボール操作などの知識が定着していないということが分かった。実技調査の結果より、4割の児童が「味方に繋げるための動き」と「返球するための動き」ができていた。「できない」と評価した児童に共通しているのは、「ボールの落下地点に向かって動くことができない」ことである。必要以上の力でボールを強く打ってしまう児童や、触ることができない児童もいたため、技能の差は大きい。

技能調査から、バレーボールの特性として重要な「落とさないための技能」、「得点するための技能」等を身に付けることができるよう横断的に練習時間を確保する必要があると考える。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

1学期の「走り幅跳び」や2学期「ハードル走」の学習において、自己の技能だけでなく、仲間の記録を伸ばそうと励まし合う児童の姿が多く見られた。また、互いの課題の解決に向けアドバイスしようとする姿も見られた。意識調査の「体育が好き」の理由として、「教え合って上手になれるから」と答えた児童が 名いることから協力して学ぶことのよさを実感している児童が少なくはないことが分かる。しかし、チーム内で「がんばれ」や「よかったよ」と肯定的な声掛けはあるものの、「今踏み切りの位置が合っていないから、もう少し遠くから踏み切るようにしてみて」のようなポイントを絞った具体的なアドバイスは少ないのが現状である。タブレット端末で撮影し合うことに満足してしまい、個人で繰り返し局面を見返したり、友達へのアドバイスの根拠として活用したりする姿が少ないことも課題と言える。教え合いの内容が明確でない分、自分の課題や上手くいかない原因を認知していないまま課題解決の時間を過ごしてしまう児童も見られた。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

【体育に関する意識調査より】(調査日：令和3年7月16日 調査人数 名)

調査項目		好き	どちらとも いえない	好きでは ない
①体育の学習は好きですか。		人	人	人
②ソフトバレーボールは好きですか。		人	人	人
(記述式)	○協力し合うのが楽しいから			人
○好きな理由	○見ている楽しそうだから			人
△否定的な理由	○わからないからやってみたい			人
	△うまくできなさそうだから			人
	△難しそうだから			人

③ソフトバレーボールの学習で心配なことはありますか (記述式)		
・ケガをすること		人
・転んだり、顔に当たったりすること		人
・みんなの足を引っ張ること		人
・ボールに触れずに終わってしまうこと		人
④ソフトバレーボールの学習で楽しみなこと、がんばりたいことはなんですか (記述式)		
・友達と協力してプレーしたい。		人
・試合に勝ちたい。		人
・アタックをたくさん決めたい。		人
・ボールを落とさないようにしたい。		人
・上手になりたい。		人
・思いっきり打ちたい。		人
・レシーブしたい。		人
・ルールを知りたい。		人
・ケガなくやりたい。		人

本学級の児童は、「体育は好きですか」という質問に対して、 人 (94%) の児童

が「好き」と答えている。このことから日々の体育の学習に前向きに取り組んでいる児童が多いことが分かる。それに比べてソフトバレーボールは、「どちらともいえない」「好きではない」と答えた児童が 人（45%）いた。ただ、失敗した経験や恐怖心があるわけではなく、「運動の仕方がわからないから」という理由が最も多く、今回の授業に至るまでに学習する機会が少なかったことが原因と言える。心配なこととして、ケガに関連する回答に次いで、「みんなの足を引っ張ること」という回答が多かった。チームで協力したいという思いがある反面、自分のプレーでチームに迷惑をかけてしまったり、自分が失敗したせいで負けてしまったりすることに対して不安を感じている児童も多いことが分かった。④の質問に対しては、「ソフトバレーボールが好きではない」と回答した児童も含めて多くの児童が、友達と協力したい、試合に勝ちたいなど前向きに答えていた。基本的技能を身に付け、向上させたい気持ち、よりよく運動したいという前向きな気持ちももっていることが分かった。

4 教師の指導観

(1) 知識及び技能

本学級の児童の実態より、身に付けさせたい動きは以下の2点である。

①ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動すること

②片手もしくは両手で相手コートにボールを打ち返すこと

この2つの動きについて、教え込みではなく、児童に必要感をもたせた上で学習に取り組めるようにする。

①の動きを習得するために、感覚づくりの運動では、1人トス、ペアキャッチボール、アタックに取り組む。1人トスでは、自分の頭上に投げたボールをキャッチすること、ペアキャッチボールでは、ペアとコミュニケーションを取り、高さや速さ、左右など変化をつけて行うようにすることで、ボールの落下地点に入ったり、ボールをつないだりする動きの感覚を養う。アタック練習では、セッターとアタッカーそれぞれの動きを繰り返し練習することで①や②の動きを身に付けられるようにする。

レシーブ、トス、アタック、3段攻撃など新出の用語については運動を行う中で簡潔に押さえ、教え合いの時間に活用できるようにする。

第3～5時は、個人練習に加え、実戦に近い形にしてチームで練習する「チームワークタイム」を行う。相手コートから投げ入れて始め、ローテーションしながら行い、ゲームの流れの中でボールをつなぐ技能、返球する技能を身に付けることができるようにする。チームワークタイムの基本的な流れは変えず、ねらいや視点だけを変えることで、技能の定着と視点の明確化を図る。また、友達の動きを見る習慣を身に付けることができるようにする。相手コートにボールを打ち返す技能が向上することで、運動への意欲も向上すると考える。①②の動きを身に付けるためにサービスについては打ち入れることのみとせず、一歩前から投げ入れることもよしとするなどの配慮をする。

コートを巡視し、よい動きをタブレット端末等で撮影、児童用タブレットやテレビにつなげて広めることで、いつでも動きを比較することができるようにする。動きの視点を明確にした上で実践と確認を繰り返す時間を設けることで、知識としての理解と技能の習得につなげたい。

(2) 思考力, 判断力, 表現力等

本学級の児童の実態より, 身に付けさせたい力は以下の2点である。

①楽しくゲームをすることができるようにルールを工夫すること

②ゲームに勝つために役割を踏まえた作戦を選ぶこと

①の姿を実現するために, 児童の実態を踏まえ, トスをキャッチに簡易化する。第2, 3時までは, お互いが楽しくプレーをする上で必要なルールを選んだり考えたりするために練習試合を行う。ルールについて児童自身が工夫したり, 自己決定したりする時間をとることで, より楽しく運動したり, 自己やチームの課題解決の時間が有効に働いたりし, 思考力, 判断力, 表現力を養うことができると考える。決まったルールは可視化し, 全員で共通理解を図る。

②の姿の実現に向け, 第6, 7時では作戦を試し, よりよい攻め方を考えながらゲームを行う。前時までに価値付けた「よい動き」を, 学習カードやタブレット端末, 掲示物等で振り返り, 試す場を設けることでチームの特徴に合わせて1つの作戦を選ぶことができるようにする。チームワークタイムで作戦を実践する時には, 児童の気付きやつぶやきを学級全体に広げたり問い返したりし, 自己や友達の動きの課題, 改善方法などについて交流できるようにする。

その際, 「〇〇を生かしてこの作戦を実行した。」「相手チームが〇〇だから〇〇の作戦にした。」のような型を提示することで教え合いを活発にし, 思考力, 判断力, 表現力を高めることができるようにする。「作戦」を使うことで, 自分の役目を遂行することが目的にすり替わってしまうことが考えられるため, 「勝つために」作戦を選んでいることを適宜指導する。

学習カードの形式について, ねらいに沿った振り返りを書くことができない児童もいる実態から, 「自分の課題は何ですか。」「解決するためにはどのような練習が必要だと思いますか。」のような質問形式とする。本時のねらいに沿った振り返りをする中で何を学んだのか児童自身が認知し, 「次はこうしたい。」と次時への見通しを明確にもたせることができるように考える。

(3) 学びに向かう力, 人間性等

大きなねらいとしてソフトバレーボールが好きではない児童に, ソフトバレーボールの一般的特性や運動のよさを味わわせることで, 「ソフトバレーボールが楽しい」と感じさせたい。そのために, 以下の3点に留意し指導する。

①運動の経験が少ない児童が, ゲームに参加できなくなることがないように教材を工夫する。ボールは, ビニール製で柔らかく, 軽量なものを使用することで恐怖心を和らげる。バドミントンのダブルスコート(縦13.4m 横6.1m)を使用し, ネットの高さは150cmとした。

②運動の仕方やルールが分からない児童が多い実態から, 単元前半は, 勝敗にこだわらずゲームの中でルールを丁寧に確認し, 「わからないからつまらない」と感じる要素を取り除く。ルールについては児童の実態に応じて適宜変更し, 最後まで意欲的に運動できるようにする。

③自分のプレーがチームに迷惑をかけること, ボールに触れずにゲームが進むことに対して不安を感じている児童も多い実態から, コート内でプレーする人数を3人とし,

必ず全員がボールに触れてから返球するルールを設定した。必然的にボールに触る機会をつくることで、ゲームに参加し、少しずつ技能を身に付けて楽しさに触れられるようにしたい。

また、運動に意欲的でない児童もいるため、本単元のゴールを「ミスプロ杯で優勝しよう！」と設定した。運動の特性上、個人のミスがチームの勝敗に響くことが大いにあり得る。勝敗にこだわるからこそ、それがより顕著に表れることも考えられる。真剣に取り組んでいる姿勢は尊重、称賛しつつ、チームメイトと上手に関わることもチームスポーツの1つの重要な要素であることも指導する。味方を励ます助言があれば学級全体に広める等の配慮をする。また、課題発見・解決の時間を中心に、個人に対する声掛けはもちろん、「あなたのアドバイスがあったから〇〇さんのプレーにつながった。」というように関わり合い自体を価値付ける声掛けもしていきたい。

(4) 研究課題との関わり

研修主題	「生きる力を培う活力ある児童の育成」 ～自ら考え、協働し、課題解決を目指す児童の育成～
------	--

高学年の目指す児童像

①	自ら進んで学習し、学習の楽しさや喜びを味わうことができる子
②	関わり合いを通して自分や友達よさに気づき、仲間と共に高め合うことができる子
③	試行錯誤を重ねて、課題を解決することができる子

研究主題に対する手立て

【仮説1】児童にとって必要感のある学びとなるよう学習過程を工夫すれば、自ら課題をもち進んで学習に取り組むことができるであろう。

○児童の思考の流れに沿った学習計画の作成

児童にとって必要感のある学びの実現に向け、児童の思いを反映して学習計画を作成したい。

第1時のオリエンテーションでは、単元のゴール、「ミスプロ杯」を設定することで学習意欲を高める。最低限のルールを確認した後、「試しのゲーム」を行う。試しのゲームを通して、ボールに触れない、つながらない、攻撃できない、ルールが分からないといった不満や難しさを児童同士で交流する。それらの意見を踏まえて、「どんなところが難しいか」、「どんな練習をすればいいか」、「どんな姿になりたいか」等の発問で、上手になりたいポイントを児童から引き出す。現時点の自分たちの実態からゴールの姿、そこまでの過程を明確にすることで、単元を通して、何を学ぶのか、1時間の学習でどんなことに取り組んでいくのかを共有する。

振り返りの時間では、内容を焦点化する。学習の成果や新たな課題に気づき、学習計画や次時のねらいにつなげて解決していくスパイラルを作ることで、児童は主体的に学び、ソフトバレーボールの楽しさや喜びを味わうことができると考える。

【仮説2】 児童が自力解決や協働しながら課題解決できるよう指導法を工夫すれば、思考力・判断力・表現力を高めることができるであろう。

基礎知識・技能の習得 → 課題を見付ける → 課題解決 → 振り返る

○自力解決のための工夫（発問の精選，教材の工夫）

児童の自力解決を促すためには、まず、発問の精選が必要である。ねらいの確認をする際は「相手が取りにくいボールとはどのようなボールですか。」「そのために必要な動きは何ですか。」のような焦点化した発問をする。同様に、感覚づくりの運動の中でも短いねらいと振り返りの場面をつくる。何も考えず、運動を繰り返すのではなく、「頭よりも高い位置でボールに手を当てよう。」と考えて取り組むようにすることで自己の課題に目を向けさせ、解決できるようにしていく。「上手に返球するためには、〇〇することが大切だと思った。」のように短い言葉でも活動を振り返る場面もつくることで、上手いかわからない原因や上手いといった理由を考える習慣を付け、思考力・判断力・表現力を高めるようにしたい。

また、既習事項である技能ポイントが一目でわかる掲示物を壁面に設置することで、ドリルゲームやチームワークタイム、メインゲームなど活動時間の中でも個人でポイントが確認できるようにし、自力解決につなげる。

○協働し、課題解決するための工夫（タブレット端末の活用，グッドプレー賞の設定）

コート内でゲームに参加しているときに、一生懸命に運動に取り組むことができても、自分の課題やチームの課題について考えることは難しく、コート外の時間はただゲームを見ているだけになってしまうことが予想される。協働での課題解決を促すためには、単元全体を通して、コート外でゲームを見ている児童に目的を与えることが必要である。

まず、友達の動きを見合う視点を明確にする。ボールをどこに向かって投げているか、どのようにボールを打っているかなど視点を絞ることで、動きの見方を身に付け、具体的なアドバイスができるようにする。見本となる動きを撮影しておき、掲示することでポイントを視覚的に確認し、教え合う際に活用できるようにする。

次に、タブレット端末を活用する。撮影した動画が手元にあることで説得力を高め、友達に自分の意見を伝えることが苦手な児童もアドバイスしやすくなると考える。ロイロノートなどのアプリを用い、友達同士の動きの違い、学習前後の自分の動きの違いなど、見比べることで教え合いの質が高まると考える。

さらに、グッドプレー賞やグッドアドバイス賞を設定する。「〇〇さんの、このプレーが良かった。」「〇〇さんの、△△のアドバイスで上手になった。」等、コート外からゲームを見ることに対する意欲付けをするとともに、見ることで、支えることが自分やチームの動きの改善につながることを価値付けたい。その際、改善された動きを評価すること、動きを改善するために行ったアドバイス等に対する評価に加え、得点できたことを積極的に評価することで、課題解決の目的を失わないようにしたい。

5 単元目標

- (1) ソフトバレーボールの行い方を理解するとともに、個人やチームによる攻撃と守備によって、簡易化されたゲームができるようにする。 〈知識及び技能〉
- (2) ルールを工夫したり、自己やチームの特徴に応じた作戦を選んだりするとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。 〈思考力、判断力、表現力等〉
- (3) ソフトバレーボールに積極的に取り組み、ルールを守り助け合って運動したり、勝敗を受け入れたり、仲間の考えや取組を認めたり、場や用具の安全に気を配ったりすることができるようにする。 〈学びに向かう力、人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①ソフトバレーボールの行い方について言ったり書いたりしている。 ②ボールの方向に体を向けて、その方向に素早く移動することができる。 ③味方が受けやすいようにボールをつなぐことができる。 ④片手、両手を使って、相手コートにボールを打ち返すことができる。	①コート of 広さやプレイヤーの人数、得点の仕方など攻めやすいルールを選んでいる。 ②勝敗を競う中で課題を見つけたり、課題解決のために役割を踏まえた作戦を選んだりしている。 ③自分や仲間が行った動きの工夫について、動作や言葉、絵図、ICT機器を用いて記録した動画などを使って他者に伝えている。	①ソフトバレーボールに積極的に取り組もうとしている。 ②ルールやマナーを守り、勝敗を受け入れようとしている。 ③用具の使い方や練習場所に気を配り、活動を安全に行っている。

7 単元計画

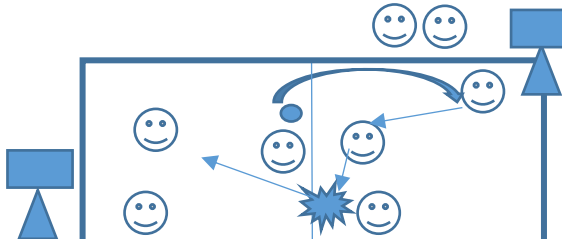
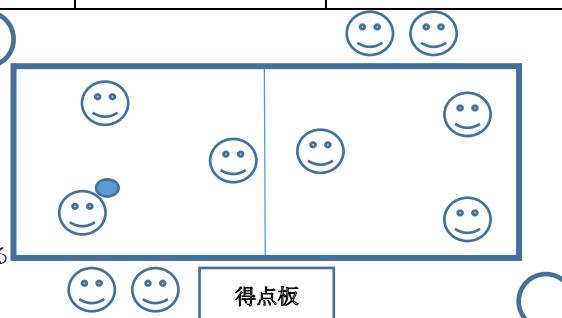
(1) 領域（ボール運動）の取り上げ方

運動/学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第5学年	第6学年	中学1年	中学2年	中学3年
ゲーム	24時間	24時間	25時間	25時間					
ボール運動					18時間	18時間			
球技							35時間	36時間	32時間

(2) 領域の内容（小型ソフトバレーボール、ソフトバレーボール）と目指す動き

学年	内容	○目指す動き（●小中一貫の視点からの重点項目）
3	フロアボール	○ボールを片手や両手ではじくこと ●ボールの方向に体の正面を向けたり、ボール操作しやすい位置に移動したりすること ○相手コートから飛んできたボールを相手コートに返球しラリーを続けること
4		
5	ソフトバレーボール	○片手や両手ではじき、味方が受けやすいボールをつなぐこと ●ボールの方向に体を向けたり、ボール操作をしやすいボールの落下地点にすばやく移動したりすること ○相手コートにボールを返球したり、打ちつけたりすること
6		
中1 中2	バレーボール	○味方が操作しやすい位置にボールをつなぐこと ●ボールの方向・高さ・スピードに合わせて、落下地点を予測して移動すること ○相手側のコートの空いた場所にボールを返すこと
中3	卓球 バドミントン ソフトテニス	●仲間の動きに合わせて空いている場所に移動すること ○相手コートのねらった場所に打ち返すこと

(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 5/8時

時	1	2	3	4	⑤	6	7	8						
ねらい	ソフトバレーボールの行い方を知り、学習の見直しをもとう。	安全に気を付けたり、ルールを選んだりしてゲームを行おう。	味方が打ちやすいボールをつなごう。	相手が取りにくいボールを返そう。	ボールを持たない人の動き方を知り、3段攻撃をしよう。	相手に勝つためにチームでできることを考えよう。	作戦の課題を伝え合い、動きを改善しよう。	友達と協力し、ミスプロ杯を行おう。						
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 学習の進め方、約束 準備の方法 ゲームの行い方 学習カードの記入の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> 用具や場の整備 安全な運動の行い方 ルールの選び方 	<ul style="list-style-type: none"> ボールをつなぐためのポイント (トスを上げる位置、トスの上げ方) 	<ul style="list-style-type: none"> 返球のポイント (頭より上でボールを打つこと、相手コートを見ること) 	<ul style="list-style-type: none"> 3段攻撃の方法 (ボールを持たない人の動き) 	<ul style="list-style-type: none"> チームの特徴に合った作戦の選び方 	<ul style="list-style-type: none"> 自分や仲間の動きの工夫について画像や動画、動作などで伝えること 	<ul style="list-style-type: none"> ソフトバレーボールのよりよい試合の行い方 						
学習過程	<p>1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。 2 準備運動をする。</p> <p><オリエンテーション></p> <p>3 単元の学習内容と本時のねらいを確認する。</p> <p>4 学習の仕方や進め方に見直しをもつ。 <ul style="list-style-type: none"> 用具の準備の仕方 学習カードの記入の仕方 </p> <p>5 試しのゲームを行う。 ※実態を知り、現状の課題や必要と思う技能やルールの不明点に気付かせ、これからの学習につなげる。 <ul style="list-style-type: none"> ゲームの進め方 基本的なルール ローテーションの確認 </p> <p>6 感覚づくり運動の確認をする。 <ul style="list-style-type: none"> 試しのゲームを基にどんな練習をすることが必要か考えた上で、提示する。 1人トス ペアキャッチ アタック </p> <p>7 後片付けをする。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>9 整理運動、挨拶をする。</p>													
	<p>3 スキルアップタイム (1人トス、ペアキャッチ、アタック) ※変化を付けたボールを投げる。(高さ、速さ、左右) ※ボールの落下地点に素早く移動することを意識する。 ※兄弟チームでコートを半分ずつ使う。セッター役はトスを上げるタイミングや高さなどを調整する。アタッカー役は、相手コートの空いている場所を見ること、頭より上でボールを打つことを意識する。</p>		<p>4 本時のねらいを確認する。</p>		<p>5 チームワークタイム ・ローテーションの動き方を確認する。 ・キャッチ→キャッチ→アタックの動きを確認する。 ・必要に応じて活動を止め、基本的なルールが把握できるようにする</p>		<p>5 チームワークタイム ・相手コートの投げ入れから始める。 ・第3時は、トスを上げる位置や高さ、上げ方を知る。 ・第4時は、頭上より高い位置でボールを打つようにする。 ・第5時は、ボールを持たない人の動きについて確認する。</p> 		<p>5 チームワークタイム ・前時までのゲームを振り返り、作戦を決める。 ・チームの動きの課題を話し合い、それを解決するための練習の場であることを確認する。 ・前時までの試合で見つけた良い動きを作戦として価値付ける。</p>		<p>5 チームワークタイム ・前時に書いた学習カードをもちあってチームワークタイムで行う練習の課題を設定する。 ・得点を競うのではなく作戦とする動きを実際に試しながらきめるための時間であることを意識させ、ゲームを止めて交流することもよしとする。</p>		<p>5 ミスプロ杯を行う。 ・今まで学習してきた事を生かし、運動している児童を称賛し、広める。</p> <p>6 片付け</p> <p>7 本時のまとめ (学習カードへの記入・ねらいに沿った振り返り・次時の学習の予告)</p> <p>8 整理運動、挨拶</p>	
	<p>6 練習試合 ※ルールの不明点を確認しながら運動するよう指導する。 ※適宜、試合を止め疑問点がないか確認する。 ・コート内は3人とする。 ・サーブは1回ずつ交代する。 ・ポジションは得点が入る度にローテーションする。 ・キャッチ→キャッチ→アタックの3段攻撃をする。 ・ブロックはしない。</p>		<p>6 メインゲーム ・ルールは練習試合と同様に行う。 ・本時のねらいを意識しながらゲームに参加している児童を称賛し、広める。 ・勝敗にこだわり、真剣にゲームに参加している児童も積極的に評価する。 ・コート外の児童には、本時のねらいを視点にして声かけすることができるよう指導する。</p> 		<p>7 片付け</p> <p>8 本時のまとめ (学習カードへの記入・ねらいに沿った振り返り・次時の学習の予告)</p> <p>9 整理運動、挨拶</p>									
評価計画	知・技	①		②	④	③④		①						
	思・判・表		①				②	③						
	態	①	③					②						
	方法	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード	観察・学習カード・タブレット	観察・学習カード・タブレット	観察・学習カード・タブレット	観察・学習カード					
場面	4, 5, 8	5, 6, 7	5, 6	5, 6	5, 6	5, 6	5, 6	5						

8 本時の学習と指導（5/8時）

(1) ねらい

味方に受けやすいボールをつなぎ、片手、両手を使って、相手コートにボールを打ち返すことができるようにする。

〈知識及び技能〉

(2) 準備

- ・ネット ・支柱 ・得点板 ・ビブス ・フラフープ ・タブレット端末 ・大型テレビ
- ・ソフトバレーボール ・掲示板 ・対戦表 ・学習カード

(3) 展開

段階	学習内容・活動	指導上の留意点（○指導 ◆評価規準） ◇小中一貫の視点
導入 10分	<p>1 集合、整列、健康観察、挨拶をする。</p> <p>2 準備運動をする。 (投力向上運動を含む)</p> <p>3 スキルアップタイム(感覚づくりの運動)を行う。 ○1人トス ○ペアキャッチ ○アタック ・兄弟チーム(2チーム)で1つのコートを縦に使う。</p>	<p>○事前に石けんで手洗いを行い、ソーシャルディスタンスを意識させ、集合する。</p> <p>○服装を整え、気持ちよく挨拶して始められるようにする。</p> <p>○1つ1つの動きを丁寧に行えるよう指導する。</p> <p>○安全に気を付けて準備をしている児童を称賛し、全体に広める。</p> <p>○役割分担し、スムーズに運動ができるようにする。</p> <p>○主運動につながるポイントを意識できるように運動のねらいを共有する。</p> <p>○既習事項を踏まえ、ボールの方向に素早く体を向けて動いたり、頭より上の高さでボールを打ったりすることが意識できるよう助言する。</p>
展開 28分	<p>4 本時のねらいを確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>ボールを持たない人の動き方を知り、3段攻撃をしよう。</p> </div> <p>5 チームワークタイムを行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>○チームワークタイムの行い方 ・自コートの投げ入れから始める。 ※前時までと違い、セッターにもボールが投げ入れられる可能性がある。 ・3段攻撃のそれぞれの役割をスムーズにできるか確認する。</p> </div>	<p>○既習事項を確認し本時のねらいにつなげる。</p> <p>○「緑チームの攻撃が止まってしまったのはなぜですか。」の発問でチームワーク、連携などのキーワードを出し、ボールを持たない人の動きについて意識できるようにする。</p> <p>○前時まで学んだ動きに加えて、ボールを持たない人の動きを身に付けることが目的であることを確認する。</p> <p>○コート外で連携について考えて仲間に発言している児童を称賛し、広める。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>◆味方に受けやすいボールをつなぎ、片手、両手を使って、相手コートにボールを打ち返すことができる。(観察・学習カード)【知識・技能】</p> </div> <p>◇掲示物や動画を根拠として伝え合うことを通し、仲間の課題を伝えることの素地をつくる。</p>

	<p>6 メインゲームを行う。</p> <p>○メインゲームの行い方</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コート内は3人とする。 ・サーブは下から投げ入れる。 ・サーブは1回ずつ交代する。 ・得点が入る度にサービス側がローテーションする。 ・キャッチ→キャッチ→アタックの3段攻撃をする。 ・ブロックはしない。 	<p>△努力を要すると判断される状況 (C) の児童への指導の手立て</p> <ul style="list-style-type: none"> ・掲示物や学習カードを参考に、味方が受けやすいボールをつなぐポイントや返球のポイントを確認する。 ・ボールを持たない時の動きについて、ゲーム中に一緒に動きながら支援する。 <p>◎十分満足できると判断される状況 (A) の児童の具体的な姿</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3段攻撃に必要なポイント(ボールを持たない人の動き、味方が受けやすく素早いつなぎ、返球のタイミング)を正確に把握して練習している。解決するための手立てやポイントについて根拠をもって伝えている。 ・ボールを持たない動きについて発言し、練習している。 <p>○規律ある挨拶や態度で正々堂々に行えるようにする。</p> <p>○3段攻撃を意識した、ボールを持たない動きについて評価する。</p> <p>○既習事項を生かした動きについても評価する。</p> <p>○仲間対して、本時のねらいを意識した声かけや応援をしていた児童を称賛し、広める。</p> <p>○1分間の対話活動では、ソーシャルディスタンスを保つよう指導する。</p>
<p>整理 7分</p>	<p>7 片付けをする。</p> <p>8 本時のまとめをする。</p> <p>9 整理運動、挨拶をする。</p>	<p>○安全に気を付け、すばやく行うようにする。</p> <p>○ねらいを改めて確認し、本時で分かったことは何かを記述する時間を取る。</p> <p>○ねらいに沿った振り返りが行えるようにする。できるようになったこととその理由を明確に書くよう声をかける。</p> <p>○3段攻撃で得点を多く取るためには「ボールを持たない人の動き」が重要であること、「より確実に、より素早くつなぐこと」が大切であること、その他児童の気付きをもとにまとめをする。</p> <p>○怪我がないか確認し、よく使った部位を意識しながら行うようにする。</p> <p>○授業後、手洗いを確実にを行うようにする。</p> <p>○次時は最後の大会であることを確認し、意欲付けを図る。</p>

9 場の設定

